

令和6年度 学校評価シート（第二中学校）

＜学校経営方針の重点＞			
1 学習指導の充実	2 生活・進路指導の充実		
3 情操教育の充実	4 校内・地域との連携		

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
確かな学力	基礎・基本的な学力の定着と向上	授業の充実と方法の工夫・改善	授業の最初に学習目標を明確に示すと共に、振り返りやまとめをしっかりと行う。	B	学習目標の提示は全ての教科で実践することができている。振り返りやまとめも意識して取り組むことができている。	目標に沿って理解できたかどうかの振り返りやまとめを行うことにより、授業内で学習の定着度を高めていく。	B	・目標に沿って振り返り、まとめ等を意識して取り組めている様子が伺える。定着度を高める学習に繋げてください。 ・基本的な学力向上を生徒一人一人と共通の認識として高めてほしい。 ・授業中の雰囲気がとても良く学習目標が明確に打ち出されているので、今後は生徒の気持ちをどう乗せていくかを取り組んでいただきたい。 ・各生徒の特性を把握し、生徒の意欲を引き出すようにお願いしたい。	現在、落ち着いて生徒が授業に取り組めている。今を学力向上の絶好の機会と捉え、目標の提示、振り返り、まとめをしっかりと行い、校内研修で教員の意識を高め、授業力向上を図っていく。
			既習内容・重要事項の定着を図る小テストやプリントの充実を図る。	B	昨年度はC評価であったが、今年度は改善されている。教員の意識改革が図れたと考える。	既習内容・重要事項の定着に小テストやプリントの充実・活用は欠かせない。教科の特性もあるが、より一層の充実を図っていく。	B	・C評価改善。小テスト、プリントの充実と工夫して取り組んでいる。生徒の自主的取り組みを育む指導をお願いします。 ・ステップアップ支援員として教える機会がありますが、プリント類がたくさんノート類に貼ってあります。先生方が準備してくださっていることに感心します。 ・小テストやプリントの内容を工夫して個々の学力を向上してほしい。 ・これまでの学習内容の振り返りや重点事項について小テストやプリントなどの対策は効果的であり、引き続き進めていただきたい。	ドリルとしてのプリントや重要事項のまとめ学習としてのプリント、スモールステップとしての小テストなど目的に応じてプリントを工夫し、活用していく。小テストで効果を確認していく。
			GIGAスクール構想に則り、ICT（タブレット、電子黒板など）の積極的な活用を図る。	B	昨年度は青梅市のICT推進校として実践を積んだ結果、Aが35%、Bが56%とICTを積極的に活用することができるようになってきている。	ICT活用の校内研修を積み重ね、更に有効な活用方法を全教科、領域で模索していく。他校との連携も視野に入れて取り組んでいく。	B	・積極的な活用を進めてください。他校との連携、情報を共有取り組むことは必要です。 ・学校公開を拝見しましたが、電子黒板の授業は見やすくて分かりやすく、生徒たちもとても集中していたように感じます。 ・全教科で活用し、学力向上を進めてほしい。 ・授業参観などを見ているとICTの活用が学習の効果につながっているので、継続しつつ、更に効果が上がるように勧めてもらいたい。 ・ICT活用を進めてほしい。その反面、紙の良い面も考えてほしい。	昨年、青梅市ICT推進校として研究を深めた成果により、タブレットの活用が進んできている。学力向上を図るために、有効に活用するという視点で、今後も積極的な活用に取り組んでいく。
規範意識と社会性	人権尊重教育の推進と丁寧な進路指導	生徒の権利尊重指導と積極的な進路指導	学校いじめ防止基本方針に則り、年4回のいじめアンケートを活用して、いじめの未然防止・早期解決を図る。	A	いじめアンケートの実施、休み時間の教員の巡回、毎週の実行委員会等で情報を共有して、いじめ防止・早期解決に取り組んでいる。	A 評価ではあるが、いじめ研修を毎月実施し、日頃からいじめかどうかにこだわらず、指導すべきこと、支援すべきことに取り組んでいる。	A	・早期対応解決でいじめのない青梅二中の実現に。 ・学校の雰囲気がよく、日々のいじめ防止の対策が効いているように感じます。 ・目配り、気配りの取組をお願いします。 ・定期的なアンケートに加えて、いじめ相談ダイヤルなども配布しており、いじめの未然防止や早期解決に努めているように感じる。	いじめは絶対に許されないことである視点を常にもち、同時に改善策のように、いじめかどうかにかかわらず丁寧な指導、支援に取り組んでいく。
			学校生活のあらゆる場面で、挨拶・言葉づかい・態度など社会性を意識した指導を行う。	B	全体的に落ち着いた学校生活を過ごすことができたが、言葉遣いやTPOに応じた行動などでその成果が十分に出ていない。継続して社会性を意識して指導を行う必要がある。	より豊かな生活を送るために、今後も学校生活のあらゆる場面で当たり前のことが当たり前にできるように取り組んでいく。生徒会やPTA主催の挨拶運動をより発展させていく。	B	・「挨拶といえば青梅二中」そんな校風をお願いします。 ・来校時、廊下ですれ違う時に、ほとんどの生徒がきちんと挨拶をしてくれます。ステップアップで生徒と話をしますが、素直で話やアドバイスをしっかりと聞いてくれます。 ・継続的に挨拶、言葉遣い、態度等の指導をお願いします。 ・生徒が落ち着いて生活しているからか、挨拶がとても気持ちがいい。三者面談等で生徒への指導はもちろんのこと、教員の言葉遣いや態度はとても丁寧で生徒の模範になるものだと感じる。	生徒会中心での挨拶運動参加者が全校生徒の約4分の1となった。集団としては成長の跡が見られる。生徒一人一人に目を向けるとまだ伸びしろも多い生徒もおり、社会に出て戸惑うことのないようにしっかりと指導していく。また、教員自らも言葉遣いには気を付けていく。
			丁寧な進路指導（進学、就職等）と発達段階に合った進路学習（職場体験、職業学習等）を行う。	B	職業講話や職場体験、上級学校の先生の話聞く会など、発達段階に応じた指導を予定通り行い、進路に向けての意識づけを行うことができた。進路指導については具体的なかつ丁寧に取り組んでいるところである。	今後も生徒に将来の希望をもたせ、意欲的によりよい進路選択ができるよう発達段階に沿った進路学習を進めていく。3年生においては夢や希望を大切にしながらも現実を直視した進路指導を丁寧に行っていく。	B	・生徒の希望、夢の実現への指導を丁寧に指導をお願いします。 ・早いうちから職業講話、職業体験など、進路を考える機会をもたせる取組は、とても良いと思います。 ・今後も今以上の丁寧な指導をお願いします。 ・各生徒の特性に合った進学先を家庭に分かりやすく提示しており、一人一人の生徒が進路先で頑張っていけるような支援を行っていると感じる。	今後も職場体験をはじめとして、将来を展望させるキャリア教育としての進路学習に取り組んでいく。目の前の進路指導にも、生徒に寄り添って、適切な目標の設定ができるように個別に丁寧に取り組んでいく。

豊かな心と体の健康	心の教育の推進と体の健康の増進	豊かな心と体の健康を育むための自主的・自発的・活動の推進	不登校生徒に対し、校内委員会で情報交換を密にし、学校・学年体制で保護者・関係諸機関とも連携して粘り強く支援を行う。	B	本人・保護者に定期的に連絡を取り、関係諸機関と連携しながら組織的に取り組み、行事や面談などには参加できた生徒や少しずつ出席数が増えてきた生徒など、その成果が現れてきた生徒も出てきた。	週1回の校内委員会で情報を共有し、単に出席を促す指導ではなく、なぜ学校に来られないのかに目を向け、保護者・関係諸機関と連携しながら、一人一人に合ったよりよい解決策を考え支援していく。	B	・不登校生徒、校内委員会、保護者、関係機関と連携し、一人一人に合った改善策を。 ・何年か前よりは不登校生徒が減っている、先生方がいろいろな方面で働きかけている成果だと思います。不登校になった理由はそれぞれだと思われるので、改善策のような支援を期待しています。 ・ゼロにするのは大変と思いますが、今後も関係機関と連携し、対応をお願いします。 ・登校が難しい生徒には、日常的に無理のない範囲で連絡を取り、生徒の成長につなげているように感じている。	学校行事等への参加の機会を定期的に促し、保護者と連携して一人一人にあった対応策、解決策を考え、登校支援室や教育相談所、ふれあい学級(適応指導教室)など外部機関も活用して組織的に支援していく。
			SDGs の意識を高め、省エネ、差別・偏見の防止など、身近にできることの実践に取り組む。	B	学年によってはSDGs について学んだ後、個人個人に関連させた目標をもたせ、実践への意識を高めることができた。	各学年の取り組みをもっと学校全体で共有して、効果的な工夫や取り組みは学校全体に広げていく。	B	・目標をもたせ、取り組んだ良いことです。身近なことから行動し、達成感を感じられる取組をお願いします。 ・具体的な取組が見えませんでした。 ・非常に難しい面があり、学校全体で取り組んでほしい。 ・SDGs の意識を高めることは、社会生活を営む上で重要であると考え、引き続き身近なところから実践してもらいたい。	学校として行動目標を定め、実行するなど、より積極的に、省エネ、差別・偏見の防止など、身近にできることに取り組んでいく
			行事(運動会等)や委員会・係活動、部活動を通して、健全育成を推進する。	B	生徒主体での学校行事に取り組み、各活動も活発になり、生徒の成長に大きく貢献することができている。	今後も行事や委員会・係活動、部活動などを通して、生徒の可能性やよさを引き出し、健全育成を推進していく。	B	・運動会、合唱コンクールと生徒の活発な行動を見ることができました。可能性を引き出しAになるようお願いします。 ・生徒たちは、とても真面目に委員会や部活動に取り組んでいると思います。部活動以外でもクラブチームやダンスなど、自分が好きなことに取り組むことは素晴らしい。 ・各事業等の責任者(生徒)は偏りなく、全員を対象をお願いします。 ・学校行事や学年通信などを拝見し、生徒が主体的に打ち込む姿がみえる。また、生徒を支える教員の熱心な地持ちが伝わってくる。	ただ単にコロナ禍前に戻すのではなく、活動の意義などを踏まえ、コロナ禍での活動の経験も活用しながら、生徒の成長に貢献できるような行事、委員会活動、部活動などを推進していく。
校内・地域との連携	学級・学年経営の充実と保護者・地域との連携	保護者・地域との連携の強化	学級間、学年間で情報を共有するとともに、ホームページ、学校・学年通信などで情報を発信し、開かれた学校づくりに努める。	B	ホームページでの情報発信に課題は残るが、ICT支援員の協力を得て、改善する必要がある。学年通信は各学年の生徒の様子や行事の取組などについてタイムリーに発信することができた。	近年の状況を鑑みて、個人情報保護法の観点から、ホームページの扱いは難しくなりつつある。保護者への情報発信については、メール配信を活用していく。	B	・情報発信が大事な時代、学校だより、メール配信等で校内、地域が効率的な連携を深められるようにお願いします。 ・ホームページは、やはり個人情報などで発信が難しいと思います。学年通信は、先生方がお忙しい中、工夫しながら発行されていて、学校生活を知ることができるので、今後も続けてほしいと思います。 ・個人情報保護法に抵触せずに情報発信をしていただきたい。 ・個人情報の取り扱いについて情報発信だけでなく、保護者の取り扱い(SNSへの掲載)も繰り返し周知を図るとよいと思う。	今後も個人情報の扱いには細心の注意を払いながら、各種たよりなどで情報を発信するとともに、ホームページやメールもその特性を生かして効果的かつ安全に活用していく。
			保護者からの連絡や相談に丁寧に対応する。	A	保護者からの連絡や相談に対して、常に丁寧な対応を心がけてきている。	学校教育における家庭との連携において基本かつ重要な項目であり、今後も丁寧な対応を心がけていく。	A	・丁寧な対応が行われていて何よりです。 ・今後も丁寧な対応をお願いします。 ・遅刻、欠席の連絡や家庭と学校間の情報共有など、親身になって話を聞いていただき、非常に丁寧な対応だった。	保護者からの連絡や相談に丁寧に対応することは、家庭と学校の連携の基本であり、事後の連絡も含め、これからもしっかりと取り組んでいく。
			地域と共に歩む意識を指導し、地域活動への生徒の積極的な参加を促す。	B	コロナ禍では地域行事が縮小され、いつ、どのような地域活動があるのかを十分に把握できなかった。そのため、生徒へ働きかけが十分にできなかった。	部活動や学校行事をはじめ学校教育活動との兼ね合いもあるが、生徒の地域活動への参加を今後も促していく。	B	・学校行事との兼ね合いもありますが、改善が進むようお願いします。 ・地域行事へのボランティア活動・参加もよいのではないかと思います。 ・防災訓練に副校長をはじめ生徒の参加をいただきありがとうございます。今後、地域活動の予定を各連合自治会から連絡するよう努力します。 ・伝統文化の残る地域であり、人と人との結びつきを様々な活動を収集して強化していくとよいと思った。	青梅学や東京2020 レガシー、ボランティア活動等を有効に活用し、生徒が地域の一員として地域活動に積極的に参加できるよう学校として支援していく。
その他重点	組織的な学校運営	チームワークを大切にする組織	主幹・主任・担当を中心に計画的かつ組織的に教育活動に取り組む。	B	教職員間の連携を密にし、運営委員会を軸に組織的に学年、学校として教育活動に取り組むことができている。	今後も担当者任せにせず、組織的な取組で、個人の負担を軽減しながらも高い成果を目指していく。	B	・組織的な運営で教員の負担軽減で成果を目指してください。 ・主任の先生を中心に先生方がよくまとまっているように思います。道徳の授業を参観した時に、特にそのように感じました。 ・組織的な取組で担任(担当)の負担を軽減してください。 ・通常学級と特別支援学級の情報共有や連携を充実したものとしてもらいたい。	教員一人一人の経験やもっている特性を生かして、今後も学校として、組織的に教育活動に取り組んでいく。
	服務規律の厳守	個人情報の管理・体罰防止の徹底	教育公務員としての自覚をもち、個人情報の紛失・漏洩のない管理と冷静な対応と粘り強い指導を行い、体罰・暴言の防止を徹底する。	A	服務事故防止研修やミニ研修などを通して体罰・暴言の防止に対する意識を高め、防止の徹底に努めてきている。	教育公務員として信頼していただけるよう、全員が自己評価Aとなるように、より一層意識を高くもち、体罰・暴言の防止に努めていく。	A	・体罰、暴言を防止し、A評価が継続できるようお願いします。 ・一層高い意識(全員自己評価Aを目指し)をもち、努めてください。 ・近年、教員による生徒に対する不適切な行為がニュースになっている。教員が生徒にかける言葉で励ましの言葉と受け取ればよいが、そうでないこともありうるので、引き続き意識を高めていただきたいと思う。 ・昭和、平成前期に比較して、先生方の生徒に対する対応も良好と思える。	次年度こそ、教員全員が自己評価Aとなるよう、改めて一人一人が教育公務員としての自覚をしっかりと高くもち、常に冷静な対応を行い、体罰・暴言の防止を徹底を図る。